

図書館を中心とした 情報リテラシー教育の構築

東北大学附属図書館 工学分館
管理係長 米澤 誠
yonezawa@library.tohoku.ac.jp

1

朝のディスカッション

それぞれの図書館で、どのような情報リテラシー教育を行っているか話し合しましょう。

また、これからどのような情報リテラシー教育を行おうと思っているか、行いたいかについて話し合しましょう。

2

はじめに

現在多くの図書館で取り組んでいる情報探索法の教授は，リテラシー教育の一面にすぎない。

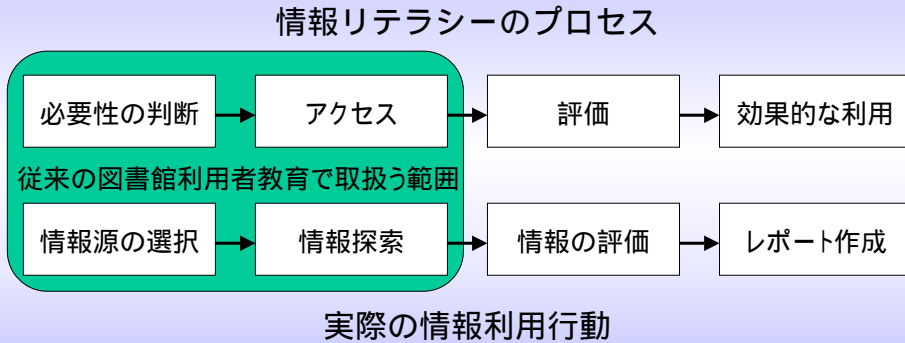
本報告では，レポート作成を通じた学習支援という観点からリテラシー教育を再構築し，より学習効果を高める図書館サービスとして，大学教育に貢献する活動を提案する。

1.1 情報リテラシーとは

「情報リテラシーとは，情報の必要性を判断し，アクセスし，評価し，効率的に利用することができる能力のことである」

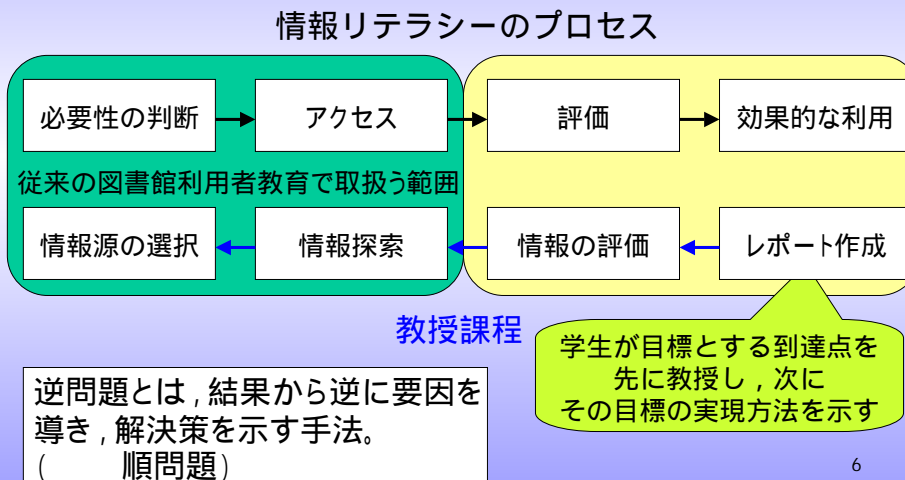
北米大学図書館協会（ACRL）の定義

1.2 情報リテラシーのプロセス



5

1.3 逆問題的手法による改善



6

1.4 講習会「上手なレポートの作り方」

理工系学生のための講習会
場所：工学分館視聴覚室

上手なレポートの作り方

- ・10/18 (火) 16:20～
- ・10/19 (水) 16:20～
- ・10/27 (水) 16:20～
- ・10/31 (月) 16:20～

※ 各回同一内容です。

レポートを完成
するために

文献を有効に
使うために

上手な文献の探し方

- ・10/18 (火) 17:00～
- ・10/19 (水) 17:00～
- ・10/27 (水) 17:00～
- ・10/31 (月) 17:00～

※ 各回同一内容です。

作成の手順
レポートの構成
レポートの書き方
実験レポートのコツ

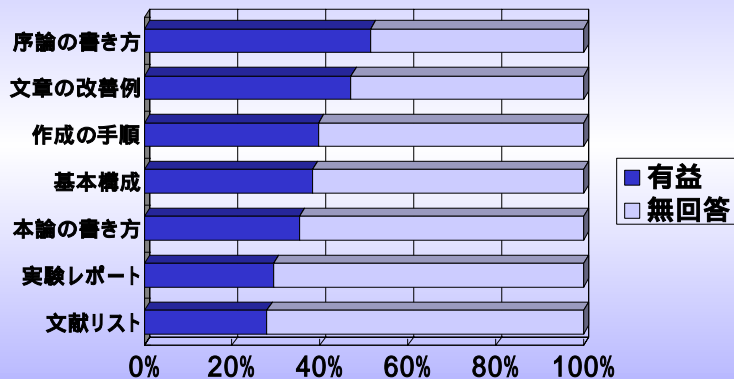
文献の探し方
検索による探し方の見直し
オンライン検索の使い方
論文データベースの使い方

実験レポートの
書き方も導入

7

1.5 受講者アンケートの結果

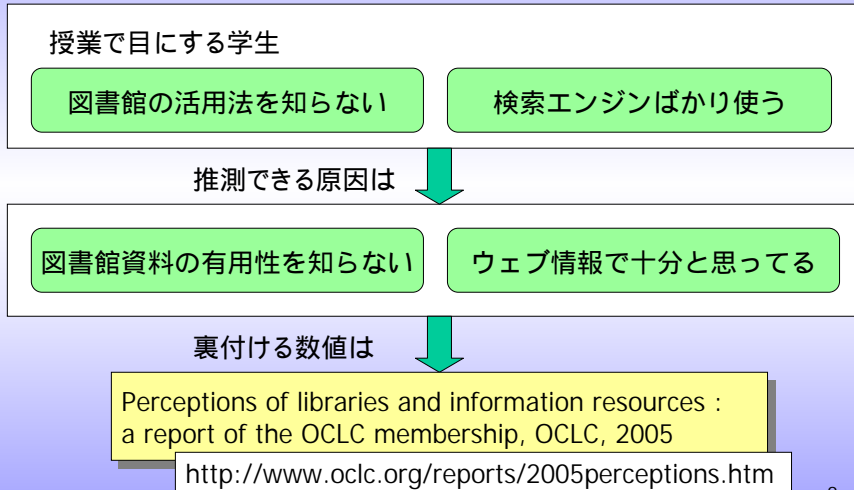
1名につき、平均3項目有益と回答



合計 21回, 68名の参加 (2006.4 ~ 10)

8

2.1 ウェブ主流時代という認識



2.2 OCLC意識調査の概要

- 2005年7月に，豪・シンガポール・印・加・英・米で実施
- 回答者は3,348名で，14才～65才以上の英語使用者
- 設問数は83

2.3 OCLC報告書の構成

序論

第1部 図書館と情報資源 - 利用度・親近度・好感度

第2部 図書館を利用する - 来館利用とウェブ利用

第3部 図書館ブランド

第4部 回答中の図書館に対する助言

第5部 図書館 - “普遍的”ブランドか？

結論

付録

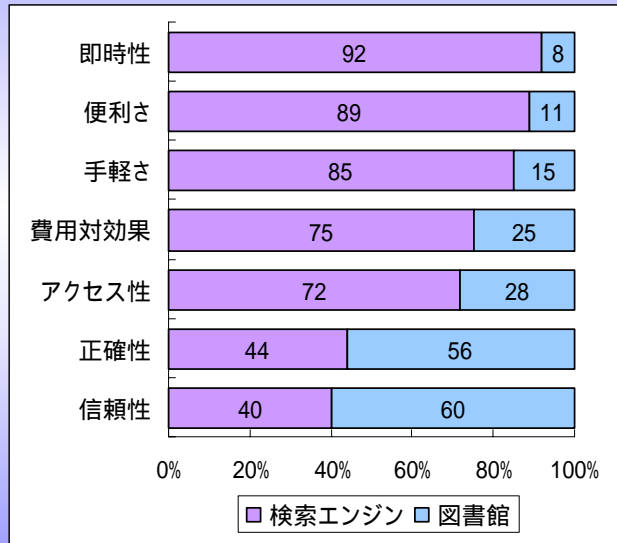
11

2.4 選択する情報源

考慮する 情報源	割合	最初に選択する 情報源	割合
検索エンジン	91%	検索エンジン	80%
図書館	55%	図書館	11%
オンライン図書館	42%	オンライン図書館	6%
書店	37%	書店	2%
オンライン書店	30%	オンライン書店	2%

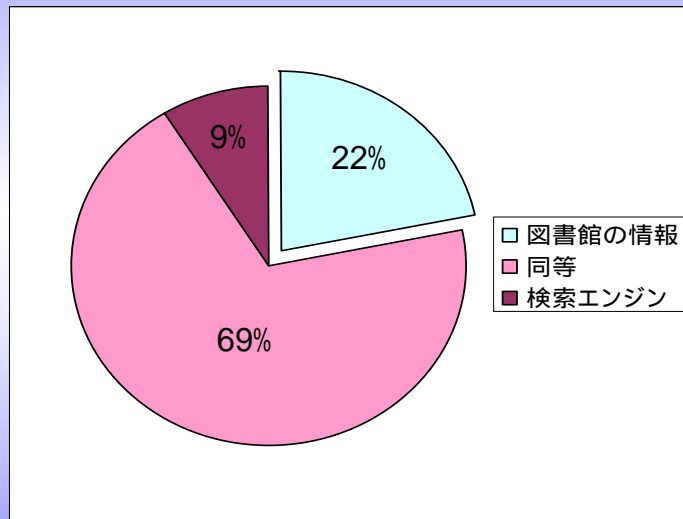
12

2.5 検索エンジンと図書館の優位性



13

2.6 情報としての信頼度



14

2.7 ウェブと図書館の利用頻度（日本）

利用頻度	検索 エンジン	図書館	オンライン 図書館
毎日	52.5%	6.1%	7.0%
週2～3回	34.4%	12.3%	9.0%
週1回	5.1%	23.4%	5.0%
月2～3回	4.0%	30.6%	12.0%
月1回	1.0%	10.2%	4.0%
年数回	1.0%	12.3%	8.0%
ほとんどなし	2.1%	5.1%	55.0%

筆者担当科目（eラーニング方式）でのアンケート調査による ¹⁵

3.1 ウェブ情報の問題点（1）

グリフィス, 1998「ウェブが図書館ではない理由」

- ・ 情報がすべてそこにあるわけではない
- ・ ウェブには基準や確証が欠けている
- ・ ウェブ上の目録作業は最小限のものである
- ・ ウェブでは情報の効率的な検索ができない

3.1 ウェブ情報の問題点 (2)

高銚, 2005 「検索エンジンの弱点」

- ・ 検索できるのは表層ウェブの情報のみ
- ・ 同義語の展開ができない
- ・ 検索できるのは過去の情報
- ・ 網羅的すぎるゆえのノイズの多さ

17

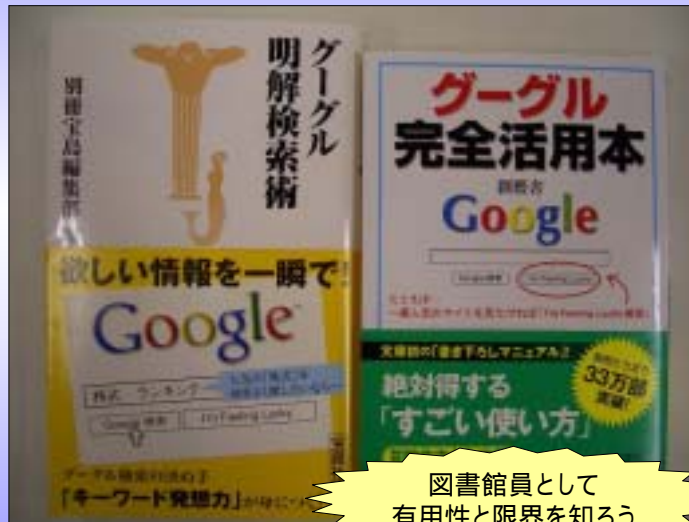
3.1 ウェブ情報の問題点 (3)

東京大学, 2006 『ネットでアカデミック』
検索エンジンの落とし穴

- ・ すべての情報を探せるとは限らない
- ・ 正しい情報とは限らない
- ・ 効率的とは限らない
- ・ 上位の結果が重要とは限らない

18

3.2 検索エンジンを知る



19

3.3 ウェブ情報の位置づけ (1)

米沢, 2006「検索エンジンを正しく利用するための認識3原則」

1. エンジンで検索できないもの多し
2. ランキング信頼性とは別のもの
3. 言葉かえ検索すれば結果別

問題点の指摘は
最小限にとどめる

20

3.3 ウェブ情報の位置づけ (2)

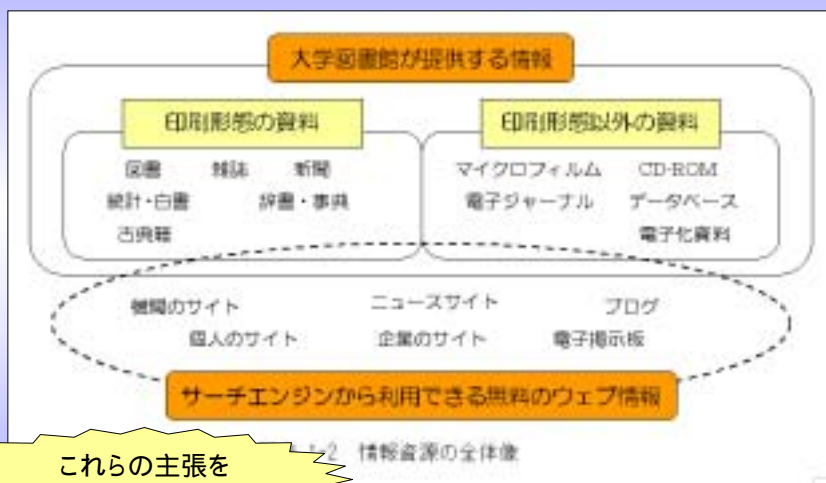
米沢, 2006「検索エンジンを正しく利用するための行動5原則」

4. いらぬものドメイン名で取り除く
5. 信頼性サイトの身元で確かめる
6. 見つかった情報ほかでも確認を
7. 何ごとか分からぬときはウェブ使う
8. タイトルでヒットなければウェブ使う

有用点を評価し
いかに利用するかを示す

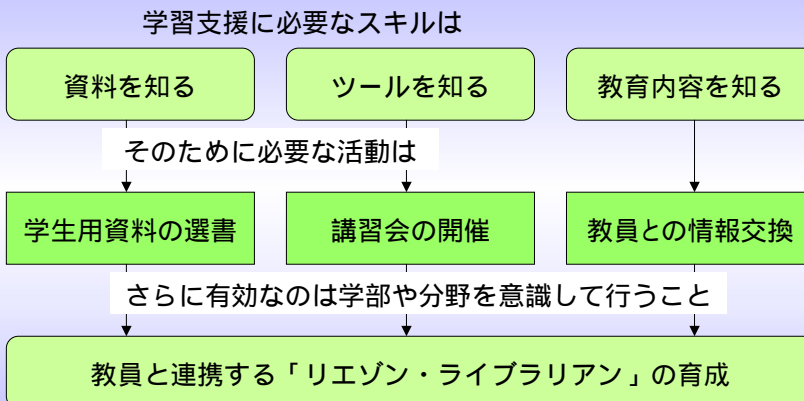
21

3.4 図書館情報資源の有用性



22

4.1 リエゾン・ライブラリアンという視点



23

4.2 シラバス連携を通じたリエゾン

生体力学 / 日本機械学会

著者	書名	刊行年	発行部数	価格	ISBN
日本機械学会	生体力学	1981	1000	4270000	4-27-40000-1
日本機械学会	生体力学	1981	1000	4270000	4-27-40000-2
日本機械学会	生体力学	1981	1000	4270000	4-27-40000-3
日本機械学会	生体力学	1981	1000	4270000	4-27-40000-4
日本機械学会	生体力学	1981	1000	4270000	4-27-40000-5
日本機械学会	生体力学	1981	1000	4270000	4-27-40000-6
日本機械学会	生体力学	1981	1000	4270000	4-27-40000-7
日本機械学会	生体力学	1981	1000	4270000	4-27-40000-8
日本機械学会	生体力学	1981	1000	4270000	4-27-40000-9
日本機械学会	生体力学	1981	1000	4270000	4-27-40000-0

シラバスから

OPAC検索に

24

4.3 展示を通じたリエゾン (1)

東北大学とアインシュタイン
ー「相対性理論」誕生百周年記念展示ー

第1部：アインシュタイン全貌

「光速度で光を追いかけたらどう見えるだろう」。
16歳のアインシュタイン（Albert Einstein 1879-1955）が9歳の疑問は、それまでの自然科学・科学観に革命をもたらす光と時空の理論「相対性理論」へと発展し、奇跡の年1905年をひかえて開花しました。

奇跡の年と呼ばれる1905年にアインシュタインは、「光量子仮説」、「ブラウン運動理論」、「特殊相対性理論」という3つの理論を立て続けに発表しました。これらは、その後の科学の発展に多大な影響を与えました。国産物理学奨励学会ではその百周年を記念して、2005年を「世界物理学年」と定めています。



工学分館 特別展示：
「シビルエンジニアとしての和算家」

江戸時代の和算書・測量書を通じて、和算家たちとシビルエンジニアリングとの関わりについて紹介します。




会場：工学分館玄関ホール
期間：10月19日～11月15日

4.3 展示を通じたリエゾン (2)

**平成18年度
科学技術週間（4月17日～23日）
記念展示**

「2035年の科学技術」
第一線の研究者が描く未来の科学技術



会場：図書館工学分館 玄関ホール
期間：4月3日（月）～5月14日（日）

平成18年度 環境月間記念展示
「江戸のエコライフ」
超リサイクル社会に学ぶ省エネの知恵

学びに

かつて世界一の大都市であった江戸は、じつに自然の恵みで江戸エコライフを築き上げていました。わずかな太陽エネルギーを効率よく活用し、不燃材を上手にリサイクルしていた社会の豊かな知恵に、わたしたち現代人は大いに学ぶべきでしょう。

環境月間（6月）を記念した本記念展示では、お洒落に描かれている江戸社会の暮らしを現えています。この展示をきっかけに、皆さまの身の回りの環境や、エネルギー問題を考え直していただければ幸いです。

展示内容：江戸の自然と江戸エコライフの再現、江戸の環境と江戸エコライフの再現、江戸の環境と江戸エコライフの再現

会場：図書館本館・分館 玄関ホール
期間：6月5日（月）～6月30日（金）

図書館員が教育に
参画できることを示す

4.4 講習会を通じたリエゾン

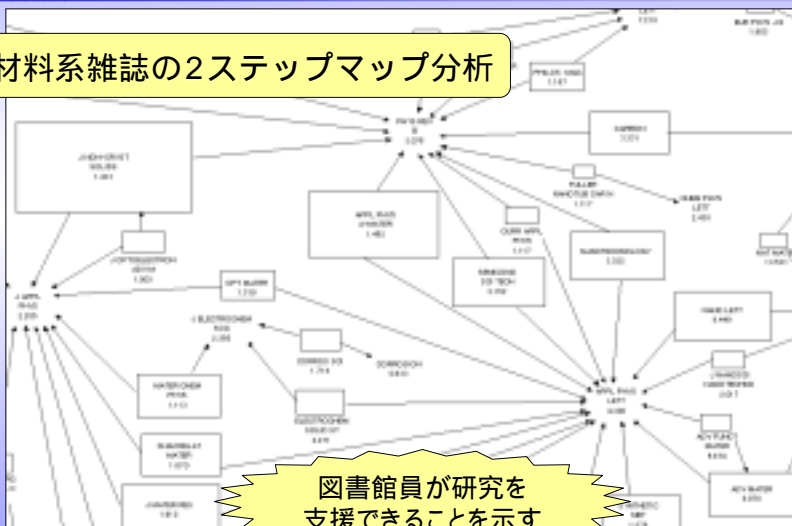


インパクト・ファクターセミナー

27

4.4 講習会を通じたリエゾン

材料系雑誌の2ステップマップ分析



図書館員が研究を
支援できることを示す

28

5.1 ラーニング・コモンズの姿

開放的で魅力的な外観



横浜国立大学附属図書館の事例

29

5.1 ラーニング・コモンズの姿

PCを使ったグループ学習



30

5.1 ラーニング・コモンズの姿

多彩な学習スペース



31

5.1 ラーニング・コモンズの姿

自在にレイアウトできる
グループ学習室



32

5.1 ラーニング・コモンズの姿

フレキシブルで開放的な
学習スペース



33

5.1 ラーニング・コモンズの姿

社交の場としてのカフェ



34

5.1 ラーニング・コモンズの姿



35

5.1 ラーニング・コモンズの姿



36

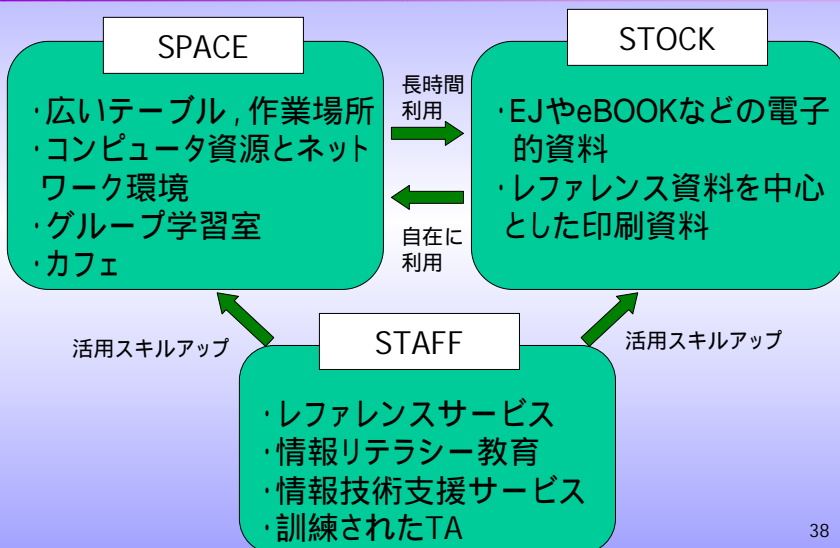
5.2 ラーニング・コモンズの具体像

- ・ 各種情報資源を活用し，長時間リラックスして学習ができる
- ・ グループ学習できるスペースがあり，プレゼン練習もできる
- ・ レファレンスサービスや各種講習会を受けることができる
- ・ スキャナー，プリンタ，マルチメディア加工設備が利用可
- ・ コンピュータ設備についての技術的支援を受けることができる

これらの主張を
教員にアピール！

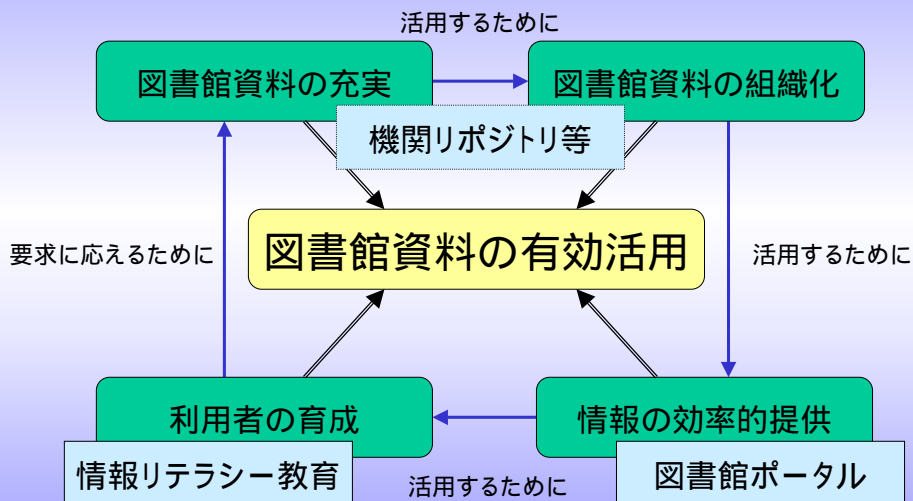
37

5.3 ラーニング・コモンズの構成要素



38

6.1 情報リテラシー教育の位置づけ (1)



39

6.2 情報リテラシー教育の位置づけ (2)

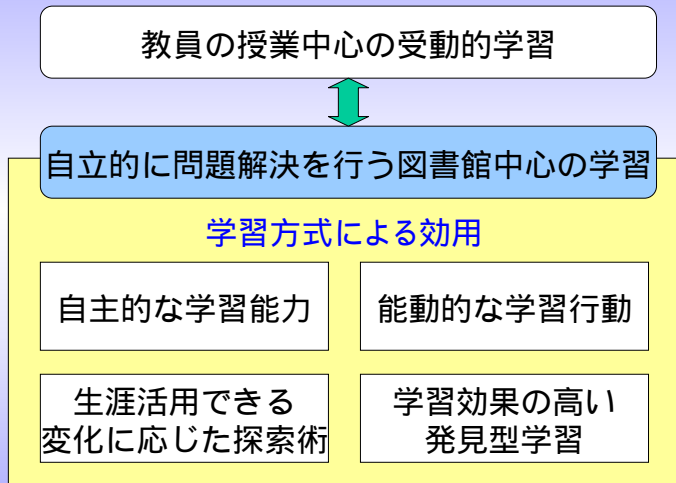
情報リテラシー教育は、図書館資料を有効活用させるための方策である。（図書館側の視点）

それ以上に、**学生の生涯学習能力を高め、教育機関としての大学の役割を果たすための、重要な活動である。**（学習・教育側の視点）

情報リテラシー教育の意義づけと活動評価を行い、大学当局にこの点を強くアピールする必要がある。

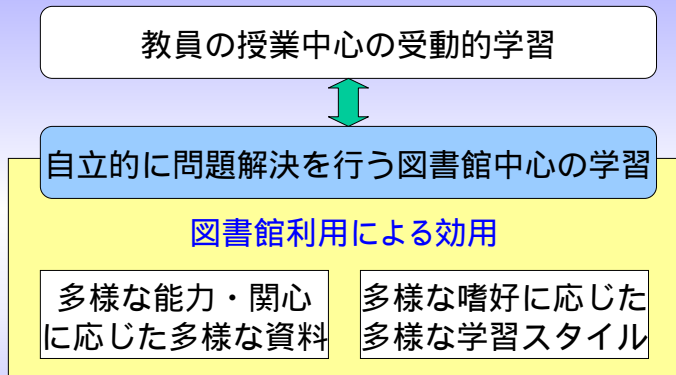
40

6.3 図書館をとりこんだ学習の効用



41

6.3 図書館をとりこんだ学習の効用



42

6.4 瀬名秀明氏の学習・研究論

瀬名秀明は、小説の執筆や研究の中で創造するためには、次のようなことが大事であると述べている。（『ハートのタイムマシン』角川文庫）

自分で調べる力を身につけよう

複数の意見を比較しよう

基礎的な知識はいつでも必要

より新しいデータを探してみよう

発表後のディスカッションを大切にしよう

43

6.5 図書館をとりこんだ授業の実践

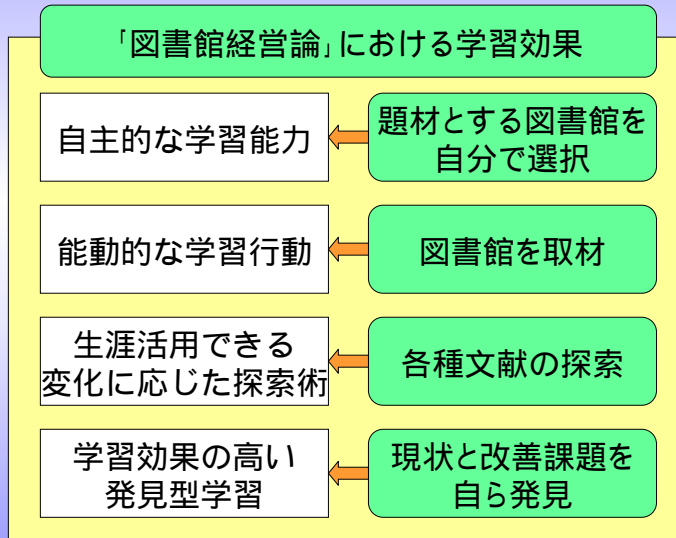
「図書館経営論」における学習方法

- ・自分のホームライブラリーを選択
- ・「現状と特色」について、文献収集と取材などでレポートを作成（3千字程度）
- ・「課題と改善策」について、文献を援用して考察し、レポートを作成（5～8千字程度）

八洲学園大学eラーニング授業の事例

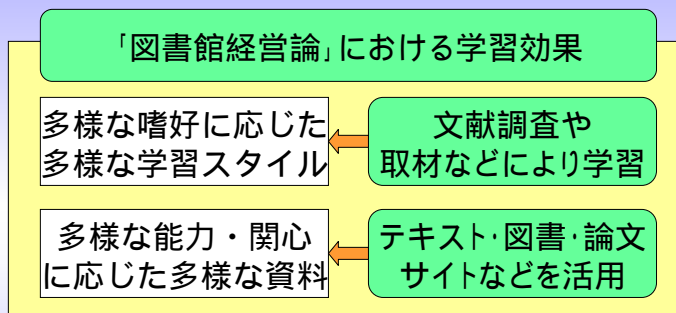
44

6.5 図書館をとりこんだ授業の実践



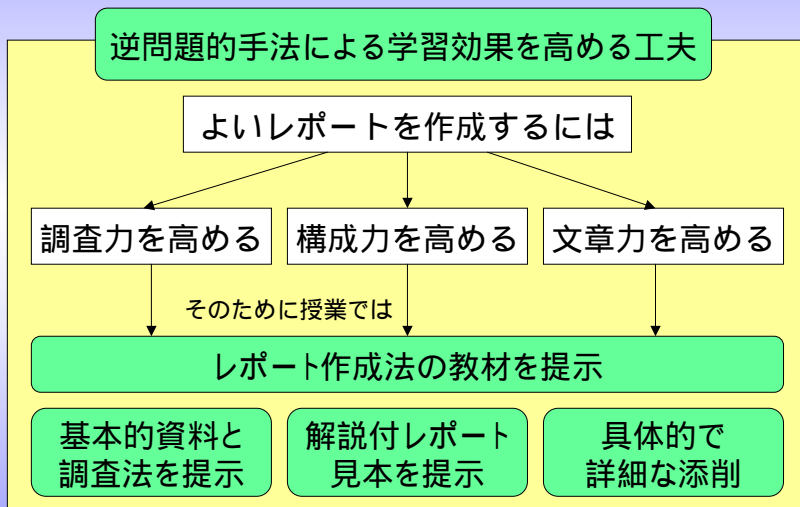
45

6.5 図書館をとりこんだ授業の実践



46

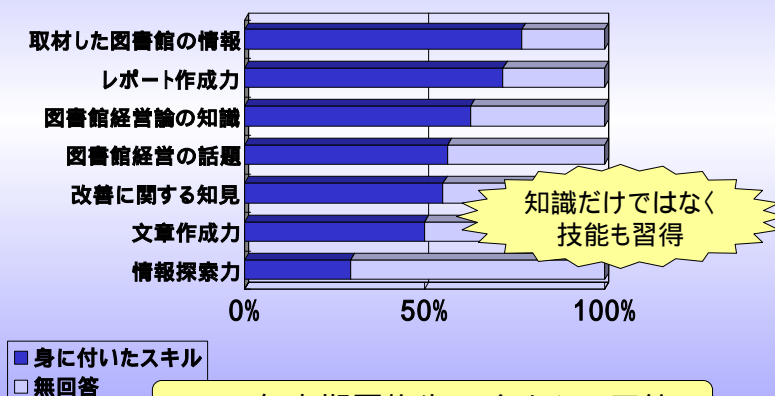
6.5 図書館をとりこんだ授業の実践



47

6.6 履修生アンケートの結果 (1)

1名につき、平均4項目のスキルが身に付いたと回答

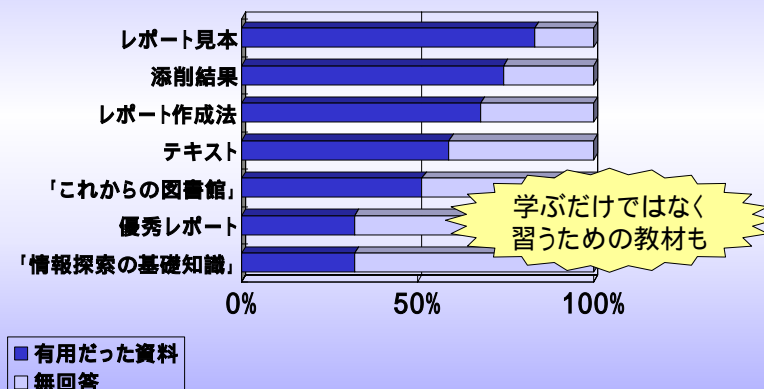


2006年春期履修生 78名からの回答

48

6.6 履修生アンケートの結果 (2)

1名につき、平均4.5の教材が有用と回答



49

6.6 履修生アンケートの結果 (3)

- ・レポートを書くために、様々なことを調べたり取材して、今まで漠然と利用していた図書館のことを、良く知ることができた。
- ・テキストで知識を学ぶだけではなく、自分の頭で考えたり、色々な資料を調べたり、図書館員にインタビューしたりと、実践を伴った科目だった。
- ・与えられた課題をこなすのではなく、学ぶ姿勢・楽しさを教えていただいた。
- ・足を使ってレポートを完成する楽しさを知りました。
- ・レポートの枚数も多く大変でしたが、実力がついたと思います。
- ・苦しくも達成感のある科目でした。さみしい気持ちがします。

50

7 文献

- ・検索エンジンを正しく利用するための8原則, 曙光: 東北大学全学教育広報, 22, 2006年, pp.15-17
- ・検索エンジン主流時代だからこそ必要な図書館利用者教育, 東北大学附属図書館報: 木這子, 30(4), 2006年, pp.22-25
- ・ウェブ主流時代における情報リテラシー教育再構築の試み, 薬学図書館, 51(3), 2006年, pp.193-197
- ・インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ: 大学図書館におけるネット世代の学習支援, カレントアウェアネス, 289, 2006年, pp.9-12
- ・八洲学園大学・図書館経営論担当, 米沢誠のブログサイト
<http://blogs.yahoo.co.jp/bpxdx655>